

■一条兼良 公卿。関白まで務めて政界を引退後、大学者として、公武合体の文化のブレーンの役割を果たした。

いちじょうかねら(かねよし)

花伝書・・・1402＝ 生。父は関白一条経嗣，母は東坊城秀長の女。

足利義満没・1408＝ 6歳：

・・・・・・1411＝ 9歳：  
・・・・・・1412＝10歳：元服と同時に正五位下に叙され禁色昇殿を許され，  
・・・・・・1413＝11歳：従三位，

・・・・・・1420＝18歳：

義教畿引將軍1428＝26歳：

播磨国一揆・1429＝27歳：\*従一位左大臣と昇進し，

明貿易回復・1432＝30歳：摂政となるも，拝賀以前に解任されたが，

和漢の学に通曉し，みずからも菅原道真に勝れりとするほどの自負を抱き，公家・武家が催す詩歌の席にはつねに出席を求められ，

永享の乱始・1438＝36歳：

永享の乱終・1439＝37歳：「江家次第」を抄する。

嘉吉の乱・・・1441＝39歳：

・・・・・・1446＝44歳：太政大臣に任ぜられ，  
成氏鎌倉公方1447＝45歳：\*念願の関白になる。

足利義政將軍1449＝47歳：「源氏物語和秘抄」，

大和土一揆・1451＝49歳：太政大臣を辞し，

・・・・・・1453＝51歳：\_関白を辞して准三宮の宣下をうける。

・・・・・・1456＝54歳：「日本書紀纂疏」，

・・・・・・1460＝58歳：「伊勢物語愚見抄」，

・・・・・・1463＝61歳：「観修念仏記」，

・・・・・・1465＝63歳：

応仁の乱始・1467＝65歳：\_応仁の乱で一条坊門邸と膨大な和漢の書籍を集積した文庫桃華坊が焼かれたため，先に一部疎開させてあった蔵書とともに五男尋尊を頼って，

・・・・・・1468＝66歳：\*奈良へ難を避けた。

\_疎開していた間にも乏しい資料をもとに，

・・・・・・1472＝70歳：「花鳥余情」や「日本書紀纂疏」などを著した。

足利義政隠居1473＝71歳：出家。

加賀一揆始・1474＝72歳：

応仁の乱終・1477＝75歳：\_奈良より戻るも，

・・・・・・1478＝76歳：「小夜のねざめ」，

山科本願寺・1479＝77歳：「文明一統記」，\_戦乱が続いて生活が苦しく，伊勢や美濃へ旅行して大名に教授して献金をうけ，冬

良の右大将拝賀のときにはその費用を得るために老体をおして越前の朝倉氏のもとへ出向いたほどで，  
・・・・・・1480＝78歳：\_將軍足利義尚のために「權談治要」「文明一統記」を著し，前者においては，義尚の母で，応仁の乱終結に尽力するも，悪女とされて評判の悪かった日野富子を励ますように，'日本はいにしえでは多くの女性が治めた国であって，男女に限らず，天下の道理にくらくなければ，政治すること補佐することに支障はない'と男女平等的な開けた論も展開して，

兼良+一休没 1481＝79歳：\_没した。

'日本無双の才人' '本朝五百年以来この殿ほどの才人は御座有るべからず' と惜まれたという。

吉川弘文館人物叢書，「没年日本史人物事典」，「人物日本歴史館」，平凡社百科事典，日本の古典名著。NHK(先人たちの底力 知恵泉)の「日野富子 悪評気にせず，突っ走れ!」で追補，